

## 説教要旨「憐み深い者に」

ルカによる福音書6章27～36節

黒人解放運動の指導者、マーティン・ルーサー・キングの有名な説教に「あなたの敵を愛せよ」があります。キング牧師によれば、「敵を愛する」とは言い換えれば、敵と思える個人であれ、集団であれ、その人々の中にも善の要素を見い出すこと、その人たちも「神の似姿」を持つ人間、「神の子」だと認めることなのだ・・・と語られています。

黒人解放運動の中で、キング牧師のこの説教を聞いていた人々も、そしてキング牧師自身も、同じように、自分の中にわき上がる『憎しみ』を味わっていたことでしょう。親しい友人を、愛する家族を、理不尽な暴力によって痛めつけられ、殺されて、なお、「敵を愛せよ」と語るのです。どうも黒い憎しみを抱える人々に、そして自分自身に言い聞かせるように。「その憎しみの対象も神の似姿を与えられた同じ人間なんだ」と。もしこの説教を、そんなどうしようもない憎しみを抱えたことのないような牧師が、キング牧師と入れ替わって語ったとしても、誰の心にも響かないでしょう。キング牧師自身が憎しみを抱えつつ、それでも「敵を愛せよ」と語っている所にこの説教の凄みがあります。

憎しみに任せて暴力を振るうならば、今度は自分自身が憎まれる側になります。その敵の家族や友人たちからも。憎しみに憎しみを、暴力に暴力を返していくならば、その連鎖で憎しみはねずみ算式に増えていくのです。

その憎しみの連鎖を断ち切ることができるのがこのイエス様のみ言葉です。

「敵を愛し、あなたがたを憎むものに親切にきなさい。…」

この言葉は、私たちが抱える憎しみと無縁の人の言葉ではないのです。世の憎しみを一身に受け、私たちの憎しみをすべて引き受けて、十字架にかかれ「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」そう言って息を引き取られたイエス・キリストが、「敵を愛しなさい。」とわたしたちに道を示してくださっているのです。

(2018・8・12 説教者：稲垣真実)